

日銀支店長が語る

# 経済よもやま話

## 第20回 暑い時の涼しさ



日本銀行仙台支店長 岡山 和裕

人は寒い時期に暖かい所に行きたくなるし、暑い時には涼しい所に行きたくなる。涼しい所と言えば、標高が高い所だと思うが、穴場なのが鉱山跡。

ニュースで、宮城県栗原市にある細倉鉱山跡がテーマパークとして整備されていて、暑い夏でも坑道の中は冷房を使わずとも15℃が保たれていると報道されていた。

このようなニュースを見ると、またまた居てもたっても居られなくなって、早速行ってみることにした。特に昨年の夏は猛暑が続いていたので。

現地に着いて、坑道に入ってみると、外気が30℃台半ばだったので、とてもヒンヤリ。上着を羽織らないといけないぐらい、とても涼しい。

そうして坑道内を巡っていると、様々な説明が書いてある。細倉鉱山は1987年に閉山されるまで、およそ1200年もの歴史があるとのこと。江戸時代の人力での掘り方の説明も書いてある。さらには、坑道内に神社が分祀されているのだ。採掘は当然のことながら危険を伴うので、第一に安全を祈願してのことだろう。そして、1960年頃には、細倉地区に1万人以上が生活していたほか、坑道の総延長は600kmにも及ぶらしい。600kmの距離は、仙台から大阪までの直線距離に匹敵する。何とも壮大な距離ではないか。

こうした経験を経てみて、少し歴史を調べてみた。そうすると、細倉鉱山は最初銀山だったが、17世紀後半から鉛の採掘が始まり、江戸時代には仙台藩で最も大きな鉱山だったらしい。その後、明治維新後に本格的に開発されて、鉛の生産額が日本一になった年もあるとのこと。

また、掘り出した鉱石を運び出すために、鉄道(栗原軌道)が敷設されたのだ。その後、くりはら田園鉄道と名前を変えており、2007年に廃線となっている。2007年ということは、細倉鉱山閉山が1987年なので、鉱山閉山後も20年間地元の交通

手段として利用されていた訳だ。

ということもあってなのだと思うが、今も線路はかなり残っているほか、車両や歴史の説明を展示しているミュージアムが常設されているのだ。しかも、ゴールデンウィーク中には、こどもまつりが開催されて、当時使っていた車両を実際に動かして、それに乗車できるのだ。ここにも行ってみた。

そして、少し調べてみると、細倉鉱山や先月ご紹介した松尾鉱山は、秋田県の尾去沢鉱山、小坂鉱山などとともに、経済産業省の近代化産業遺産群33の一つに指定されているのだ。

これに分かると、またまた行きたくなかった(笑)。

尾去沢鉱山は細倉鉱山と同じように坑道が整備されて、坑道の中に入れる。小坂鉱山は、鉱山事務所と芝居小屋に加えて、鉄道のレールパークが設置されているのだ。

さて、なぜ鉱山開発がこれほどまで進んだのか。調べてみると、17世紀後半から18世紀前半まで、日本が世界1位の銅生産国だったようだ。そして、江戸時代から、産出された銅の大部分は輸出されていて、第一次世界大戦が終わる頃までは、銅は輸出金額の上位に位置していたのだ。すなわち、銅の輸出は明治維新以降の外貨獲得に大きく寄与していた訳だ。

今の経済発展の礎を垣間見た気がした。

ところで、こうした鉱山巡りが思わぬ気づきをもたらしてくれた。それは…来月のお楽しみに!!

### 岡山 和裕氏 プロフィール

1969年(昭和44年)生まれ  
兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任